
言語研究センター共同研究

学術場面における話し言葉の分析 ～上級日本語シラバスの構築にむけて～

富谷 玲子／高木南欧子

学術場面における上級日本語シラバスの構築のためには、日本語使用実態の基礎調査が不可欠である。現在、『日本語話し言葉コーパス (CSL)』（国立国語研究所）などのコーパスやデータベースは何点か公開されてはいるものの、大学内のゼミなどで行われる討論や、小規模集団による協同学習における話し言葉を扱ったデータはまだない。本研究では、大学学部生（日本人学生・留学生）の学術場面における日本語の話し言葉の使用実態の基礎調査・分析と、それに基づく上級日本語シラバスの構築を目的とする。今年度は、分析に必要

となる3人会話の分析方法の開発を行うことを目指し、主に3人会話のトランスクリプト作成作業の標準化を行った。2005年度に行った独話（スピーチ等）のトランスクリプト作成作業の標準化の規則は、音声特徴の差により、3人会話に適用可能な箇所と不可能な箇所があり、新たに3人会話独自のトランスクリプト作成作業の標準化をする必要があった。今後は、開発した3人会話の分析方法に問題点がないか検証、修正を行い、学術場面の話し言葉データの分析をすすめ、上級日本語シラバス構築への応用を目指す。